

## 社会科学学習指導案（公民的分野）

学 級	3年3組（男子21名 女子19名 計40名）
場 所	3年3組教室（3年棟2階）
授業者	教 諭 加 藤 晃 一

### 1 単 元 私たちの生活と経済

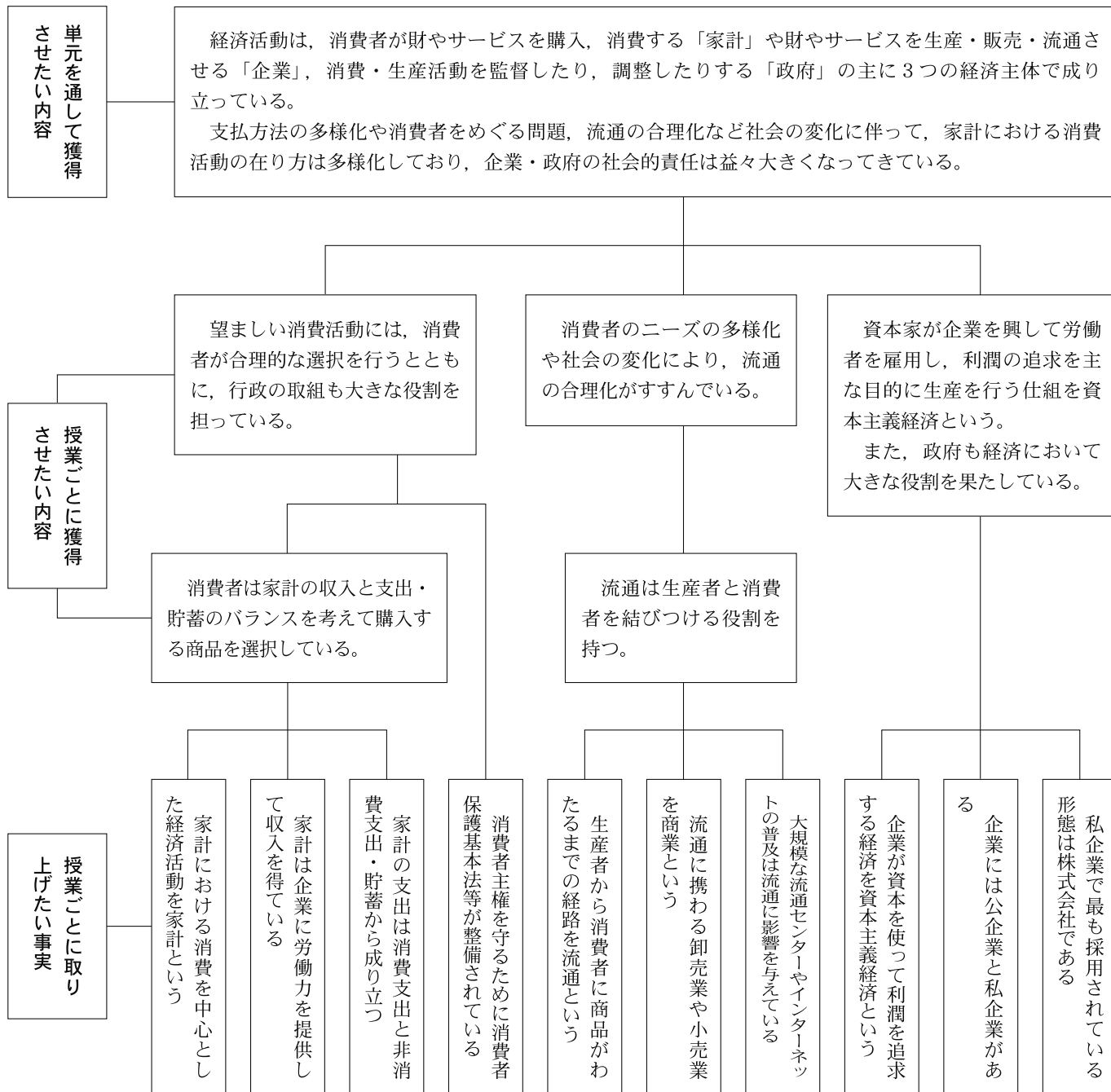
#### 2 単元について

本単元では、消費、流通、生産についての基礎的・基本的な知識や概念等を取り上げ、経済活動の意義を身近な生活と結び付けて学習する。経済活動は、消費者が財やサービスを購入し消費する家計や、財やサービスの生産・販売・流通を担う企業、消費・生産活動を監督したり、調整したりする政府の三主体で成り立っている。この中で生徒にとってもっとも身近なものが家計であり、生徒も消費者として経済活動に携わっている。しかし、商品等の購入に際して、生徒の知識は不十分であり、近年、契約をめぐるトラブルは若年層から高齢者に至る幅広い世代で起こっている。そこで、消費者が安心安全に生活できる社会を実現するために企業や行政の取組が進み、2009年には消費者庁が発足した。一方で、家計は企業に労働力を提供し、経営や生産を担っている。近い将来、家計を支えたり生産に携わったりしていく生徒にとって、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解し、それがより豊かで文化的な生活の基盤の構築につながることを学習する意義は大きいと考える。

意識調査の結果、本学級の生徒は、公民の学習に対して約7割の生徒が興味・関心をもっており、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られるが、新聞を毎日読んだり、TVのニュースを見たりしている生徒の割合は約5割程度にとどまっている。さらに、経済について知っていることの問いには、円高や不景気と答えた生徒がそれぞれ約1割程度にとどまり、中には内閣支持率の低下など、政治について答える生徒もいた。このことから、経済を身近なものとしてとらえきれていない実態が見られる。また、身近な社会的事象から課題に気づき、解決のために自分なりの考えをもち、発表に結び付けることに苦手意識をもっている生徒は、約4割に上った。一方、教科書や資料集などのグラフ、図表から必要な情報を読み取ることができると答えた生徒は約7割程度であった。この実態から、資料などから読み取った情報を、自分なりに考えをまとめる力に結び付けることができるように習得させる必要がある。

そこで、指導にあたっては、まず、シュミレーション等の具体的事例から、家計や企業の活動に注目させ「経済」について大観させ、学習の見通しを立てさせる。そして、評価規準を設定し、学習内容（知識）の構造化を図ることで、一単位時間ごとに身に付けさせたい知識、概念や技能を明確にし、学習課題に対する自分の考えをまとめさせる。さらに、単元の最後には、単元全体を振り返り、レポートにまとめさせたり、討論的な学習活動を取り入れたりした。このような学習活動を展開することで、習得した知識、概念や技能を活用し、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことにつながると思った。

### 3 学習内容（知識）の構造化「私たちの生活と経済」



### 4 単元の目標

- (1) 企業の経営、商品の広告調査や小売店の聞き取り調査など、問題解決的な学習に取り組むとともに、身近な経済に対し関心をもち、経済活動における選択について意欲的に考えることができる。  
＜社会的事象に対する関心・意欲・態度＞
- (2) 身近で具体的な事例を通して、経済活動における選択について、消費者・生産者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断し、説明することができる。  
＜社会的な思考・判断・表現＞
- (3) 個人の消費生活や企業の生産活動について、資料の収集・選択・活用を図ることができる。  
＜資料活用の技能＞
- (4) 身近な消費活動を通して、経済活動の意義や生産・流通・消費といった経済の大まかなしくみについて、理解することができる。  
＜社会的事象についての知識・理解＞

## 5 単元の指導計画及び評価規準（私たちの生活と経済）

時間	学習内容	学習目標	評価規準			
			社会的事象に対する関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
1	経済とは	○経済とは何か、わたしたちの生活との関わりから捉え単元全体を見通す。	・身近な生活の中から経済と関係のある事象を見だし、関心を高めている。	・わたしたちの生活と経済との関係について、関連づけて考えることができる。	・経済の三主体の関係を表す資料より、それぞれの関係を読み取ることができる。	・経済活動の主体は家計・企業・政府の3つであることを理解しその知識を身につけている。
2	消費と貯蓄	○商品の選択や収入と消費のバランスを考えた消費活動に心がけるなど、家計における消費活動を考える。	・商品の選択といった活動に意欲的に参加するとともに、他の意見を聞き、経済活動における選択について考えようとしている。	・カード利用による消費活動を通して望ましい消費活動のあり方について資料をもとに自分の考えをまとめ発表できる。	・支出の内容の内訳や支出の変化のグラフから消費支出の構造を読み取ることができる。	・家計における収入や支出、貯蓄について、また、クレジットカードについて理解し、その知識を身につけている。
3	消費者の権利と保護	○宣伝や広告と日常の消費行動に着目し、消費者主権に関心をもつ。 ○消費者の権利と保護について実際の被害例や対応策を通して考える。	・宣伝や広告についての調査や話し合いに進んで取り組み、消費者主権と消費についての問題に関心をもって意欲的に追究している。	・消費者を取り巻く問題、消費者自身の責任などについて多面的・多角的に考察し、企業・消費者の立場から公正に判断し自分の考えを説明している。	・消費者をめぐる問題にはどのような事例があるか、新聞や広告等の身近な資料から読み取ることができる。	・消費者問題について、消費者の権利や行政の取組、消費者を守る法律について理解し、その知識を身につけている。
4	流通のしくみ	○様々な商品の流通経路に関心を持ち、流通・商業について理解する。 ○流通の合理化について、消費者の立場、流通業者の立場から考える。	・流通や商業について意欲的に追究し、商品の流通経路と合理化について考えようとしている。	・流通の合理化について多面的・多角的に考察し、生産者、流通業者（商業）、消費者などそれぞれの立場から公正に判断し、自分の考えを説明している。	・小売業、大型ディスカウントストアの店舗数や売り上高の推移のグラフ等の資料から必要な情報を読み取ることができる。	・生産と消費の仲立ちとしての流通のおおまかなしくみや経路について理解し、その知識を身につけている。
5	生産のしくみ	○活動を通して株式会社の仕組みを理解し、企業の役割と社会的責任について考える。	・会社設立のシミュレーション学習に協力して話し合ったりするなど課題に意欲的に取り組むとともに、企業活動という社会的な事象を身近で具体的なものとして捉えている。	・会社を設立、経営していく上で必要なものや資金集めの方法、企業の役割と社会的責任について多面的・多角的に考察し、自分の意見をまとめたり発表方法を工夫したりしている。	・企業に関する資料を様々な方法で収集・選択し、企業の経済活動を追究している。	・資本主義経済のおおまかな特徴と株式会社のしくみを理解し、その知識を身につけている。
6	ハンバーガーショップの経営者になつてみよう	○シミュレーションを行うことでこれまでの学習をもとに生活と経済の関係、経済活動における選択について考える。	・ハンバーガーショップの出店・経営が消費者行動抜きには成り立たないことに留意し、学習課題の解決に意欲的に参加している。	・経営者（生産者）・消費者それぞれの立場や開店場所の諸条件を考慮するなど、経済活動における選択について多面的・多角的に考察し、自分の意見を説明している。	・鹿児島市内の地図や観光案内図を参考にしながら、適切な立地条件を見いだすことができる。	・場所の選択の際、既習事項の消費者・流通・生産者（企業）のそれぞれの立場を理解し、その知識を身につけている。

## 6 本時の実際（2 / 6）

### (1) 主題名消費と貯蓄

### (2) 学習目標

商品の選択や所得（収入）と消費のバランスを考えた消費活動に心がけるなど、近年、増加傾向にあるクレジットカードによる支払いについても触れながら、家計における望ましい消費活動の在り方を考える。

### (3) 授業設計の工夫

思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動の工夫

まず、収入（所得）と支出・貯蓄から成り立っていることなど、家計についての基礎的・基本的な内容を教える。次に、2011年7月24日のアナログ放送終了の話題を取り上げ、ある

家族の家計簿を見て、デジタルテレビを購入するにはどうしたらよいかという問いから、経済の主体の一つである家計は、身近な問題であることを捉えさせる。そして、様々なデジタルテレビの中から、家族の要望と家計の収入と支出、貯蓄を考慮しながら最終的に購入するデジタルテレビについて班で話し合い、判断させる。最終的に家計の望ましい在り方について、根拠を明確にし、論述させる。その際、クレジットカードでの支払いなど現金以外の支払方法も提案することで、収入と支出のバランスを考えることや貯蓄の必要性を考えさせたい。このような学習活動を通して思考力・判断力・表現力等をはぐくみたいと考える。

(4) 本時の展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価
導 入	一 斉	3 2	1 ある家計簿を見て、地デジ対応テレビを購入する方法を考える。 2 学習課題を確認する。 (学習課題) 所得（収入）と消費（支出）、貯蓄はどのような関係が望ましいのだろう。	○ 家計簿を提示し、「7月から導入の地デジ対応テレビを購入するにはどうしたらよいか」と発問する。 ○ 本時の学習課題を確認させる。 ◎ 家計を身近なものとして捉え、関心を持つことができたか。
展 開	一 斉	7	3 家計は所得（収入）、支出、貯蓄から成り立っていることを理解する。	○ 家計の所得（収入）、支出の説明をする。 ①所得…勤労所得・事業所得・財産所得 ②支出…消費支出・非消費支出・実支出以外の支出（貯蓄・保険）など
	一 斉	5	4 導入の問いに対する自分の考えを発表する。 貯蓄を使う 借金をする クレジットカードを使う など	○ 導入の問いに対し、板書などを参考に考えさせ、どのような手段で購入できるか発表させる。
	一 斉	9	5 クレジットカードの仕組みについて説明を聞く。	○ 様々な購入手段の中からクレジットカードによる支払いのシステムについて説明する。 ・サインで金額に関係なく購入できる。 ・クレジット＝信用。 ・借金である。
開	班	9	6 クレジットカードを使って、広告から購入するテレビを選択し、購入を決めた理由を含めて発表する。 A：一番高価で大画面・多機能で家族全員の希望が満たせる。	○ 月の家計簿や家族の要望、家電販売店の広告を提示し、クレジットカードを使ってどのような価格帯のデジタルTVを購入するか考えさせる。 広告：A、B、C、Dの4種類のTVを掲載
	個 ↓ 一 斉	10	B：高価で大画面。家族の希望が一部満たせる。 C：月の残高とお小遣い内で購入できる。家族の希望が一部満たせる。 D：月の残高内で購入できる。安価であるが家族の希望は満たせない。 7 家計（所得と消費、貯蓄の関係）の望ましいあり方について自分の考えをまとめ、発表する。 消費活動は、所得（収入）をもとに予算を立て予算に従って合理的な選択を行うのが望ましい。また、緊急の場合や将来のために、貯蓄を心がけることも必要である。 また、現金に代わるカード等の支払いは便利であり、経済の活性化にもつながる。しかし、支払い能力を考え、使用する必要がある。	例1. カードでの支払いは借金なので、返済が大変にならないように価格帯の安いTVを選ぶ。 例2. 安定した収入があるので、家族の希望通りの高い価格帯のTVを選ぶ。 など ○ 本時の学習内容をふまえて、学習課題に対する自分の考えをまとめさせ、発表させる。 ○ 消費生活センターの職員のインタビューからクレジットカードの現状について紹介する。 ※ 授業のポイント ◎ 課題に対して的確な根拠をあげて、他者が納得する説明をしている。
終 末	個 一 斉	3 2	8 重要事項の確認をする。 9 次時の学習内容を確認する。	○ 「重要語句の確認」に取り組みさせる。 ○ 次時の予告をする。